



PRESS RELEASE

平成 24 年 12 月 21 日
奈良県観光局ならの魅力創造課

奈良県の魅力を再発見し発信する「記紀・万葉プロジェクト」の一環として 「首都圏記紀シンポジウム ～古事記と時間軸～」を東京で開催

～日本最古の歴史書『古事記』をテーマに基調講演やコンサート、古事記ゆかりの県知事がサミットを実施～

奈良県では、『古事記』完成 1300 年の平成 24 年(2012 年)から、『日本書紀』完成 1300 年の平成 32 年(2020 年)までの 9 年間、『古事記』、『日本書紀』(以下『記紀』と記述)、『万葉集』に代表される歴史素材を活用し、奈良県の魅力を再発見して県内外の人たちに発信していく「記紀・万葉プロジェクト」を推進しています。その一環として、「首都圏記紀シンポジウム ～古事記と時間軸～」を平成 25 年 1 月 27 日(日)、銀座ブロッサム(東京都中央区)で開催します。

当シンポジウムは、完成 1300 年を機に注目を集める日本最古の書物『古事記』を題材に、関わりのある他県とも連携し、その歴史性、文化性、国際性などをクローズアップ、古事記に親しむ全国的な機運を盛り上げていくことを目指して開催するものです。

シンポジウムのプログラムは大東文化大学の工藤隆教授による基調講演(テーマ:「古事記誕生の始源にさかのぼる」)のほか、歌手・作曲家・音楽プロデューサーとして活躍する歌枕直美さんの「現在に生きる古事記歌謡の心」と題したコンサート、古事記にゆかりのある奈良、三重、和歌山、島根、宮崎の各県の知事によるサミットを開催する予定です。

また、会場では、参加各県による観光PRポスターの展示やチラシによる観光情報発信も行います。

なお、奈良県では、当シンポジウム以外にも県内外でさまざまなイベントを実施しています。

【ご参考】

『古事記』とは

日本最古の古典。現存する日本最古の歴史書。上中下 3 巻から成る。稗田阿礼(ひえだのあれ)が天武天皇の勅で誦習(しょうじゅう)した帝紀および先代旧辞を、太安万侶(おおのやすまろ)が元明天皇の勅により撰録して 712 年(和銅 5 年)献上。上巻は神代(かみよ)、中巻は神武天皇から応神天皇まで、下巻は仁徳天皇から推古天皇までの記事を収め、神話・伝説と多数の歌謡とを含みながら、天皇を中心とする日本の統一の由来を物語る。「こじき」、あるいは「ふることぶみ」と読む。

『日本書紀』とは

わが国最初の勅撰(ちよくせん)の史書とされる。神代(かみよ)から持統(じとう)天皇 11 年(697 年)年までの出来事などが記されている。帝紀・旧辞、諸氏族の記録、寺院の縁起、中国の史書、百済の関係記録など当時の文献を幅広く参考にし、まとめられた。『日本書紀』には天武天皇が川嶋皇子、忍壁皇子(おさかべのみこ)ら 12 人に作成を命じたこと、『続日本紀』には 720 年に完成し、舎人親王によって奏上されたと記されている。

<お問い合わせ先>

□ 報道関係の方

首都圏記紀シンポジウム広報事務局(フリーマン内) 藤井・水井

TEL.03-5280-1356 FAX.03-5280-1357

□ 一般の方

首都圏記紀シンポジウム事務局(株)イベント&コンベンションハウス内)

TEL.03-3831-2601 FAX.03-5807-3019

[平日 10:00~18:00]

□ 首都圏記紀シンポジウムホームページ <http://www.ech.co.jp/kikisympo2013>

「首都圏記紀シンポジウム ～古事記と時間軸～」概要

開催日:平成25年1月27日(日) 13:00～16:30(12:30 開場)

開催場所:銀座ブロッサム(銀座中央会館)ホール

(東京都中央区銀座 2-15-6)

<http://www.ginza-blossom.jp/company/index.html>

主催:奈良県

協力:三重県、和歌山県、島根県、宮崎県

後援:観光庁

入場料:無料

参加申込方法:郵便番号、住所、氏名、電話番号、FAX 番号、同伴者名(1 回のお申込で1 名様まで)を明記し、FAX または e メールでお申込みください。FAX でお申込みいただいた方には FAX で、e メールでお申込みいただいた方には e メールで、聴講券を返信させていただきます。

[申込先]

「首都圏記紀シンポジウム事務局」

FAX.03-5807-3019 e メール kikisympo2013@ech.co.jp

定員:900 名(先着順) ※お申込みは定員に達し次第、終了とさせていただきます。

プログラム:■第1部 ー古事記以前ー

○基調講演(13:00～14:30)

工藤 隆(大東文化大学 文学部日本文学科 教授)

「古事記誕生の始源にさかのぼる」

～文字化以前の東アジア神話歌謡・歌垣から考察する古事記のルーツ～

古事記が誕生するまでには、少なく見積もっても、縄文時代から古事記「序」のいう 712 年までの 1 万年以上の日本列島民族の歴史が刻まれている。この、ほとんどが無文字文化である時代において、大陸や南の島々からの日本列島への人々の移動や文化の流入、国家の成立などの動きの中で古事記は誕生した。古事記誕生までを東アジアに現在も残る文字化以前の神話歌謡や歌垣の記録映像も交えながら語っていただきます。

■第2部 ー古事記以後ー

○歌枕直美 古事記コンサート「現在に生きる古事記歌謡の心」(14:30～14:45)

歌枕直美プロフィール

1962 年 大阪府生まれ

1985 年 大阪芸術大学 音楽教育学科専攻科卒業

歌手・作曲家・音楽プロデューサー

万葉集の和歌に日本人の心の原点を感じ、西洋音楽と融合させ、CD「みやびうた～音楽で綴る万葉集」シリーズを 1997 年に発表。万葉集を音楽にして現代に生かす先駆者となる。さらに、万葉集を根幹に古事記、日本書紀に伝わる和歌を歌うことにより歴史の中にある知恵を表現する新しい舞台芸術「和歌劇～和歌と映像で語る歴史物語」を創作し、2002 年より国内外で公演。ヨーロッパ公演では、“日本の心を感じた”との評価を得る。また、各地に残る歴史文化を再発見し、その中にある知恵を新たに展開していこうという試み「歴史的建築物を生かすコンサート」を企画し、10 年以上にわたり行っている。



○古事記ゆかりの県知事サミット「神話的風土としての連帯」(14:45～16:30)

各県知事が古事記のゆかり地を紹介し、地域の魅力をお伝えします。

コメンテーター 大東文化大学教授 工藤 隆

コーディネーター くらしと文化研究所主宰 音田 昌子

奈良県知事 荒井 正吾

三重県知事 鈴木 英敬

和歌山県知事 仁坂 吉伸

島根県知事 溝口 善兵衛

宮崎県知事 河野 俊嗣



PRESS RELEASE

平成 24 年 12 月 21 日
奈良県観光局ならの魅力創造課

奈良県の魅力を再発見し発信する「記紀・万葉プロジェクト」の一環として 「首都圏記紀シンポジウム ～古事記と時間軸～」を東京で開催

～日本最古の歴史書『古事記』をテーマに基調講演やコンサート、古事記ゆかりの県知事がサミットを実施～

奈良県では、『古事記』完成 1300 年の平成 24 年(2012 年)から、『日本書紀』完成 1300 年の平成 32 年(2020 年)までの 9 年間、『古事記』、『日本書紀』(以下『記紀』と記述)、『万葉集』に代表される歴史素材を活用し、奈良県の魅力を再発見して県内外の人たちに発信していく「記紀・万葉プロジェクト」を推進しています。その一環として、「首都圏記紀シンポジウム ～古事記と時間軸～」を平成 25 年 1 月 27 日(日)、銀座ブロッサム(東京都中央区)で開催します。

当シンポジウムは、完成 1300 年を機に注目を集める日本最古の書物『古事記』を題材に、関わりのある他県とも連携し、その歴史性、文化性、国際性などをクローズアップ、古事記に親しむ全国的な機運を盛り上げていくことを目指して開催するものです。

シンポジウムのプログラムは大東文化大学の工藤隆教授による基調講演(テーマ:「古事記誕生の始源にさかのぼる」)のほか、歌手・作曲家・音楽プロデューサーとして活躍する歌枕直美さんの「現在に生きる古事記歌謡の心」と題したコンサート、古事記にゆかりのある奈良、三重、和歌山、島根、宮崎の各県の知事によるサミットを開催する予定です。

また、会場では、参加各県による観光PRポスターの展示やチラシによる観光情報発信も行います。

なお、奈良県では、当シンポジウム以外にも県内外でさまざまなイベントを実施しています。

【ご参考】

『古事記』とは

日本最古の古典。現存する日本最古の歴史書。上中下 3 巻から成る。稗田阿礼(ひえだのあれ)が天武天皇の勅で誦習(しょうじゅう)した帝紀および先代旧辞を、太安万侶(おおのやすまろ)が元明天皇の勅により撰録して 712 年(和銅 5 年)献上。上巻は神代(かみよ)、中巻は神武天皇から応神天皇まで、下巻は仁徳天皇から推古天皇までの記事を収め、神話・伝説と多数の歌謡とを含みながら、天皇を中心とする日本の統一の由来を物語る。「こじき」、あるいは「ふることぶみ」と読む。

『日本書紀』とは

わが国最初の勅撰(ちよくせん)の史書とされる。神代(かみよ)から持統(じとう)天皇 11 年(697 年)年までの出来事などが記されている。帝紀・旧辞、諸氏族の記録、寺院の縁起、中国の史書、百済の関係記録など当時の文献を幅広く参考にし、まとめられた。『日本書紀』には天武天皇が川嶋皇子、忍壁皇子(おさかべのみこ)ら 12 人に作成を命じたこと、『続日本紀』には 720 年に完成し、舎人親王によって奏上されたと記されている。

<お問い合わせ先>

□ 報道関係の方

首都圏記紀シンポジウム広報事務局(フリーマン内) 藤井・水井

TEL.03-5280-1356 FAX.03-5280-1357

□ 一般の方

首都圏記紀シンポジウム事務局(株)イベント&コンベンションハウス内)

TEL.03-3831-2601 FAX.03-5807-3019

[平日 10:00~18:00]

□ 首都圏記紀シンポジウムホームページ <http://www.ech.co.jp/kikisympo2013>

「首都圏記紀シンポジウム ～古事記と時間軸～」概要

開催日:平成25年1月27日(日) 13:00～16:30(12:30 開場)

開催場所:銀座ブロッサム(銀座中央会館)ホール

(東京都中央区銀座 2-15-6)

<http://www.ginza-blossom.jp/company/index.html>

主催:奈良県

協力:三重県、和歌山県、島根県、宮崎県

後援:観光庁

入場料:無料

参加申込方法:郵便番号、住所、氏名、電話番号、FAX 番号、同伴者名(1 回のお申込で 1 名様まで)を明記し、FAX または e メールでお申込みください。FAX でお申込みいただいた方には FAX で、e メールでお申込みいただいた方には e メールで、聴講券を返信させていただきます。

[申込先]

「首都圏記紀シンポジウム事務局」

FAX.03-5807-3019 e メール kikisympo2013@ech.co.jp

定員:900 名(先着順) ※お申込みは定員に達し次第、終了とさせていただきます。

プログラム:■第1部 ー古事記以前ー

○基調講演(13:00～14:30)

工藤 隆(大東文化大学 文学部日本文学科 教授)

「古事記誕生の始源にさかのぼる」

～文字化以前の東アジア神話歌謡・歌垣から考察する古事記のルーツ～

古事記が誕生するまでには、少なく見積もっても、縄文時代から古事記「序」のいう 712 年までの 1 万年以上の日本列島民族の歴史が刻まれている。この、ほとんどが無文字文化である時代において、大陸や南の島々からの日本列島への人々の移動や文化の流入、国家の成立などの動きの中で古事記は誕生した。古事記誕生までを東アジアに現在も残る文字化以前の神話歌謡や歌垣の記録映像も交えながら語っていただきます。

■第2部 ー古事記以後ー

○歌枕直美 古事記コンサート「現在に生きる古事記歌謡の心」(14:30～14:45)

歌枕直美プロフィール

1962 年 大阪府生まれ

1985 年 大阪芸術大学 音楽教育学科専攻科卒業

歌手・作曲家・音楽プロデューサー

万葉集の和歌に日本人の心の原点を感じ、西洋音楽と融合させ、CD「みやびうた～音楽で綴る万葉集」シリーズを 1997 年に発表。万葉集を音楽にして現代に生かす先駆者となる。さらに、万葉集を根幹に古事記、日本書紀に伝わる和歌を歌うことにより歴史の中にある知恵を表現する新しい舞台芸術「和歌劇～和歌と映像で語る歴史物語」を創作し、2002 年より国内外で公演。ヨーロッパ公演では、“日本の心を感じた”との評価を得る。また、各地に残る歴史文化を再発見し、その中にある知恵を新たに展開していこうという試み「歴史的建築物を生かすコンサート」を企画し、10 年以上にわたり行っている。



○古事記ゆかりの県知事サミット「神話的風土としての連帯」(14:45～16:30)

各県知事が古事記のゆかり地を紹介し、地域の魅力をお伝えします。

コメンテーター 大東文化大学教授 工藤 隆

コーディネーター くらしと文化研究所主宰 音田 昌子

奈良県知事 荒井 正吾

三重県知事 鈴木 英敬

和歌山県知事 仁坂 吉伸

島根県知事 溝口 善兵衛

宮崎県知事 河野 俊嗣